

在来種を守り、武蔵野の自然を取り戻したい

認定NPO法人 生態工房



職員の岩本愛夢さん

笹や水草を刈って明るい場所や泳ぐ場所を確保する活動を行っています。また、バードサンクチュアリの前にある区内最大の「すすき原っぱ」では、落ち葉かきをした後、集めた落ち葉で焼きいもや焼きりんごを作って、楽しみながら原っぱを守るイベントも実施しています。どの活動も、目的は一貫して在来生物の保全です。

また、職員の岩本さんによれば、都内を中心に各地の池の水を抜いて、オオクチバスやブルーギルなどの外来生物の駆除をする“かいぼり”も積極的に行っているとのこと。

「外来種は放っておくと繁殖して増え、その地域に昔からいた在来種が減少して生態系が崩れてしまいます。かいぼりは、外来種を駆除して在来種を守るのには効果的な手法なんです。参加者に魚獲りをしてもらうことで、外来種がもたらす生態系への影響を伝える絶好の機会にもなっているんですよ」
区外では、井の頭公園内の池のかいぼりの依頼も受けています。年々かいぼりの回

池に入り、定期的に水草を刈る作業を行います



数も増え、モニタリング調査によって在来種の増加が確認され、その効果は実証されています。

「在来種を守るためには、駆除や管理などの活動が欠かせません。でも、飼っていたペットなどを遺棄されてしまうこともあり、なかなか活動が前に進まないこともあります。だから、ミドリガメ(ミシシippiaアカミミガメ)などのペットを飼ったら、自然に放すことなく、最後まで責任をもって飼育してほしいのです」

外来種の駆除が必要でなくなる日が来るのが願いだと話す、岩本さん。

「自然環境は、適度に人の手を入れて維持していかないと保てないということ、また、生態系を守るためには何をすべきなのかを、広く知ってもらえたらうれしいですね」

■ 認定NPO法人 生態工房
理事長：安部邦昭
TEL：0422-27-5634

光が丘公園の一角にある、野鳥をはじめとする野生生物の聖地「バードサンクチュアリ」。ここに生息する60種以上の野鳥や、哺乳類、昆虫、水生生物、植物などの生息環境を整備し、武蔵野の自然の保全と復元を進めているのが認定NPO法人生態工房です。設立は平成10年。常勤の職員7名が、学生やボランティアメンバーと協力しながら活動をしています。

バードサンクチュアリ内の展示やイベントの企画、情報発信はもちろんのこと、野鳥たちのために



土日・祝日には観覧舎から野鳥や生き物が見られます。1日の利用者が1,000名を超える日もあるとか